

講義を受ける前に

本日の講義は産婦人科医師を対象としています。
講義の時間は約25分です。

患者さんにお渡しして説明するパンフレットを
右のQRコードからダウンロードしてご利用ください。



パンフレット

本日の講義のハンドアウトを準備しましたので、
右のQRコードからダウンロードしてご利用ください。



講義資料

パンフレット (<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/obgy/research/obstetrics/postpartumcare/pamphlet1.pdf>)

講義資料 (<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/obgy/research/obstetrics/postpartumcare/handout2.pdf>)

妊娠高血圧症候群を発症した方に対する
長期的なQOL向上にむけて
～ポスト・インターコンセプションケアの実践～

名古屋大学大学院医学系研究科 産婦人科学講座

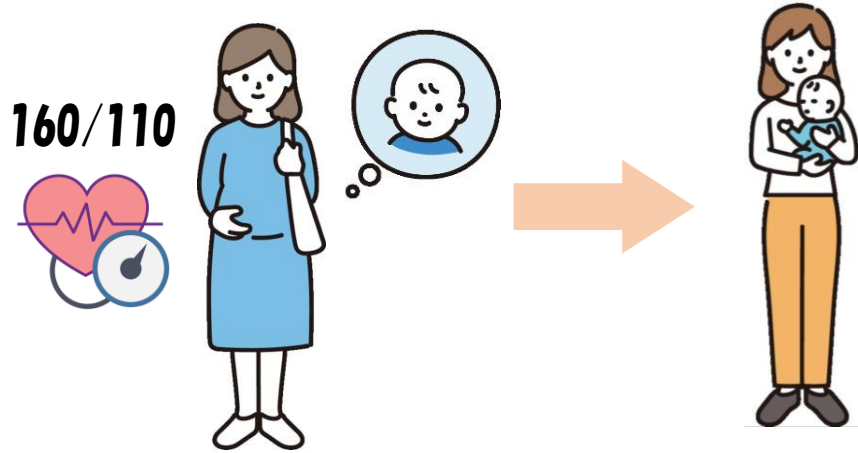
牛田 貴文



Nagoya University Graduate School of Medicine

本日の講義の概要

妊娠高血圧症候群 (HDP) 1ヶ月検診



次回妊娠時

妊娠高血圧症候群の再発

中高年

これまでのHDPの管理

- ・ 診断・病型分類
- ・ 管理方法
- ・ 合併症予防

適切なポスト・
インターコンセプションケア

高血圧
心血管障害



2 型糖尿病



インスリン治療

これからのHDPの管理

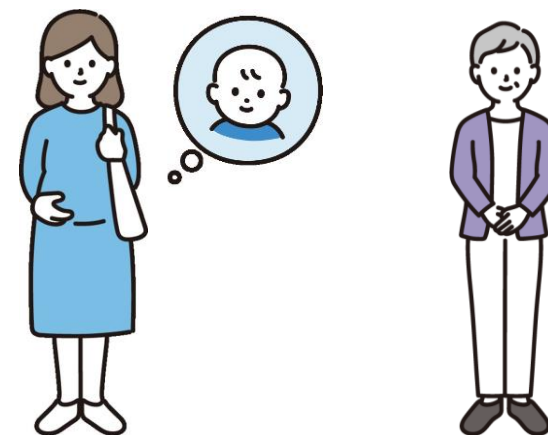
本日の講義の内容

- ・ 妊娠高血圧症候群を発症した女性の将来の疾患リスクについて
- ・ ポスト・インターコンセプションケアとは？
- ・ 症例提示
 - ┌ 患者さんへの情報提供・生活習慣指導について
 - └ HDP再発予防に向けたインターコンセプションケアについて
- ・ 患者さんへの情報提供・生活指導を成功させるためには

本日の講義の目標

「妊娠高血圧症候群を発症した女性の、将来の疾患リスクについて理解し
ポスト・インターコンセプションケアを**実際に行えるようにする**」

情報提供・生活習慣指導の実践



妊娠高血圧症候群の**再発リスク軽減**
将来的な心血管疾患**リスク軽減**

本日の講義の内容

- ・ 妊娠高血圧症候群を発症した女性の**将来の疾患リスク**について
- ・ ポスト・インターコンセプションケアとは？
- ・ 症例提示
 - ┌ 患者さんへの情報提供・生活習慣指導について
 - └ HDP再発予防に向けたインターコンセプションケアについて
- ・ 患者さんへの情報提供・生活指導を成功させるためには

HDPと将来の疾患リスクについて

産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023

「CQ309-2 妊娠高血圧症候群と診断されたら？」

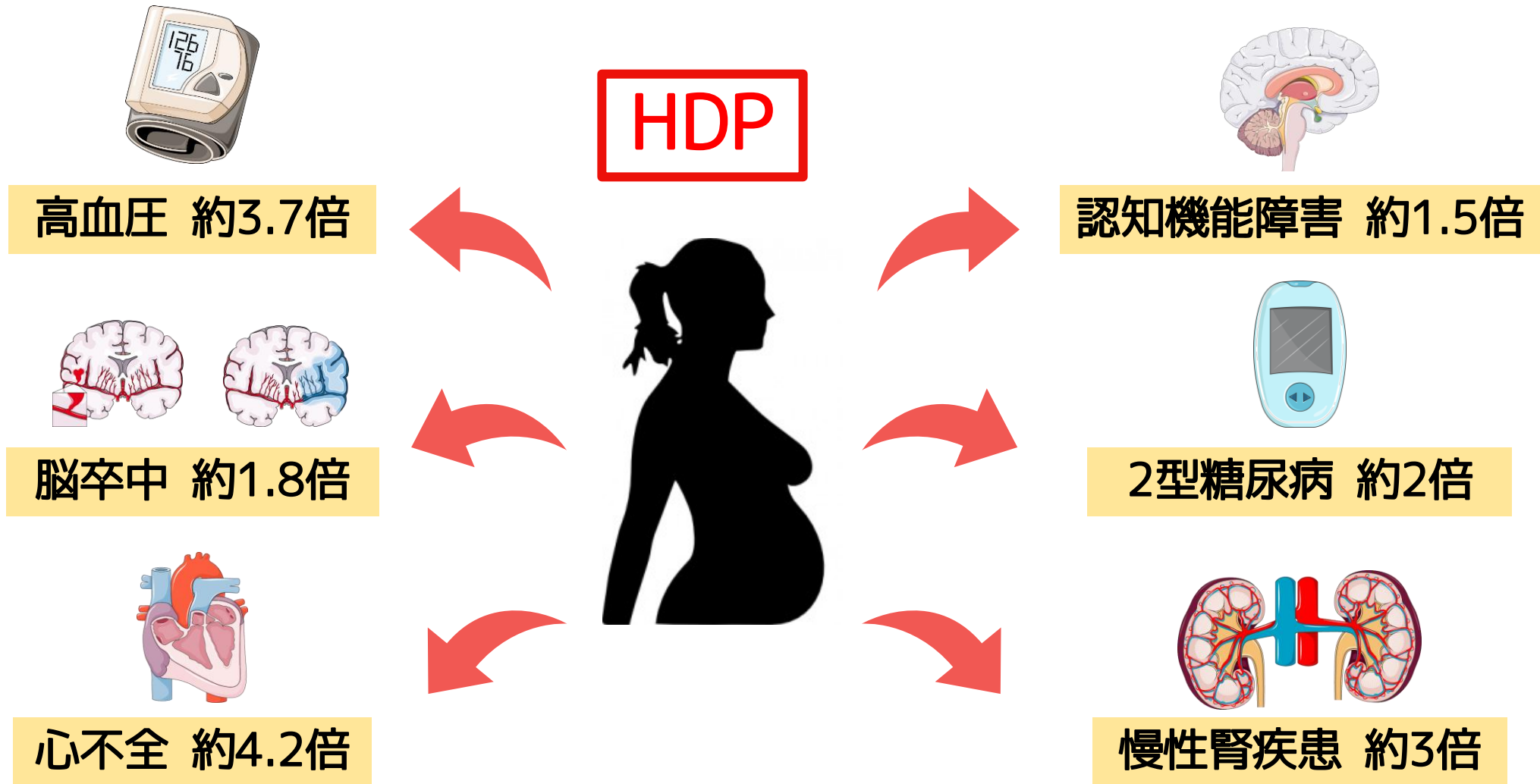
12. 妊娠高血圧症候群（HDP）を発症した女性は将来的に高血圧、脳心血管疾患、糖尿病、慢性腎臓病などを発症するリスクが高いため、長期にわたり定期的な健康診断を勧める（C）

気が付かれた方は少ないと思いますが・・・
HDPの産後のフォローについて今回の改訂で
初めて記載されました



編集・監修 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会

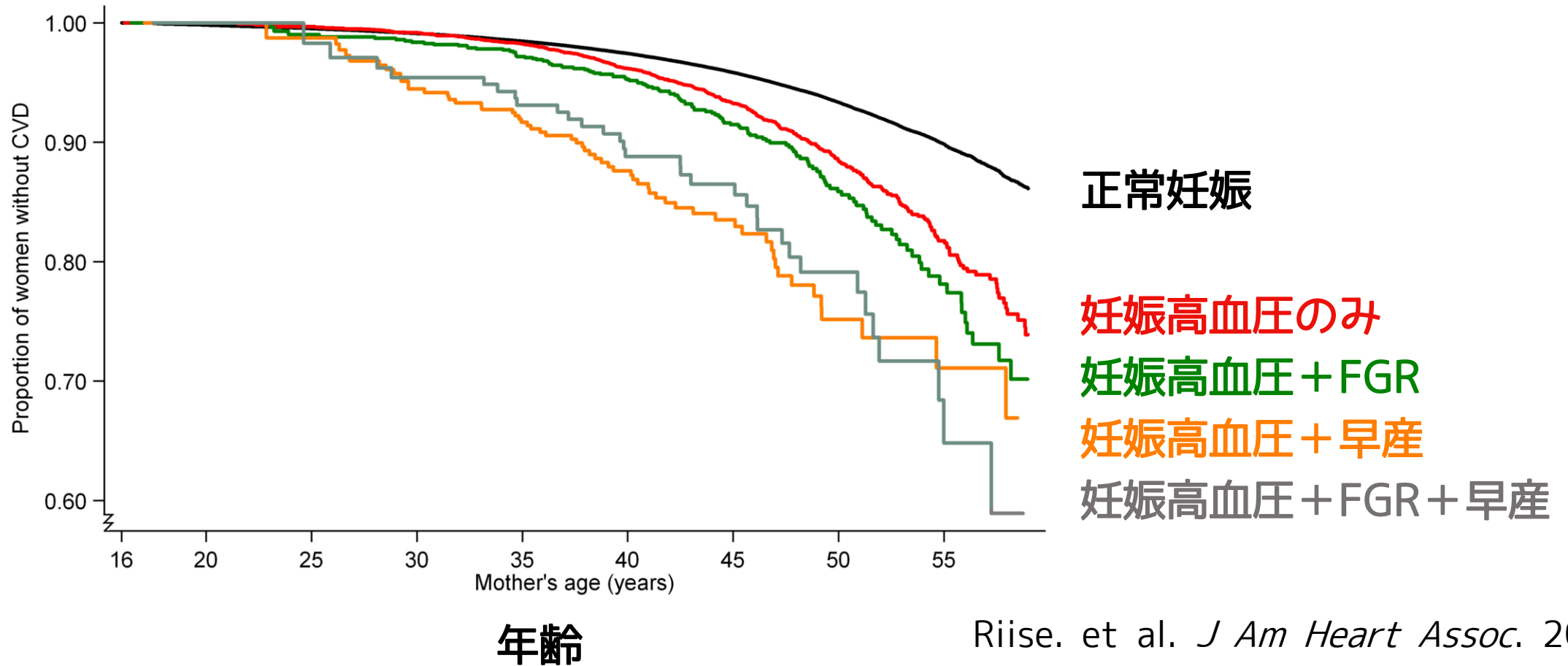
HDPと将来の疾患リスクについて



Zhao. et al. *Diabetologia*. 2021
Barrett. Et al. *JAMA Netw Open*. 2020
Carey. Et al. *Am J Obstet Gynecol*. 2024
Coutinho. et al. *Curr Treat Options Cardiovasc Med*. 2018

HDPと将来の疾患リスクについて

心血管イベントがない女性の割合



Riise. et al. *J Am Heart Assoc.* 2018

HDPと将来の疾患リスクについて

HDP既往女性はなぜ将来リスクが高くなるのでしょうか？

HDPのリスク因子

≡ 脳・心血管疾患のリスク因子

- ・ 高血圧の家族歴
- ・ 肥満
- ・ 高齢妊娠
- ・ 糖尿病・妊娠糖尿病
- ・ 腎疾患
- ・ 膠原病など



もともとリスクが
ある女性



HDPを
発症しやすい



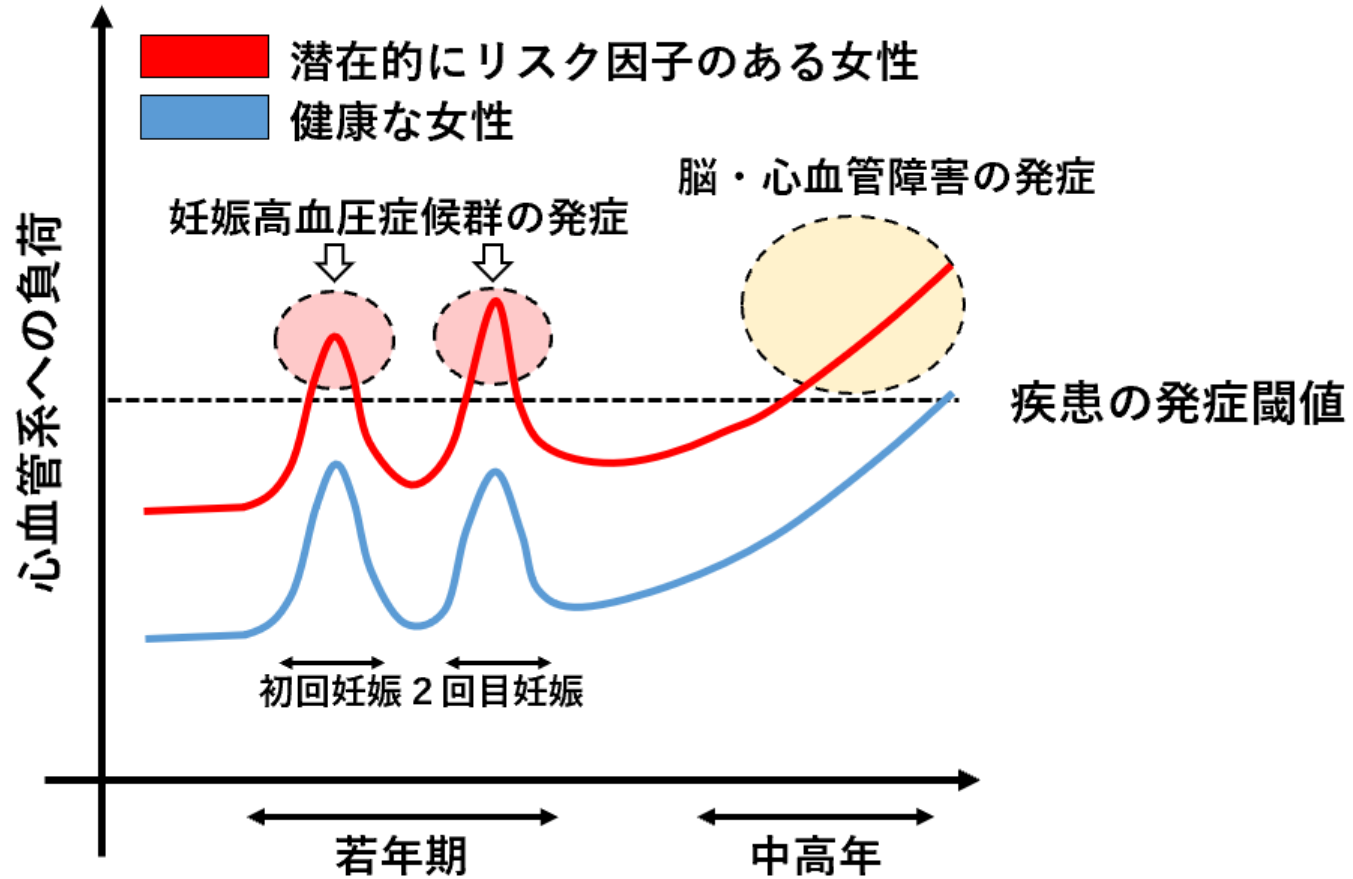
将来、心血管疾患
糖尿病を発症しやすい

HDPと将来の疾患リスクについて

HDP既往女性はなぜ将来リスクが高くなるのでしょうか？



HDPと将来の疾患リスクについて

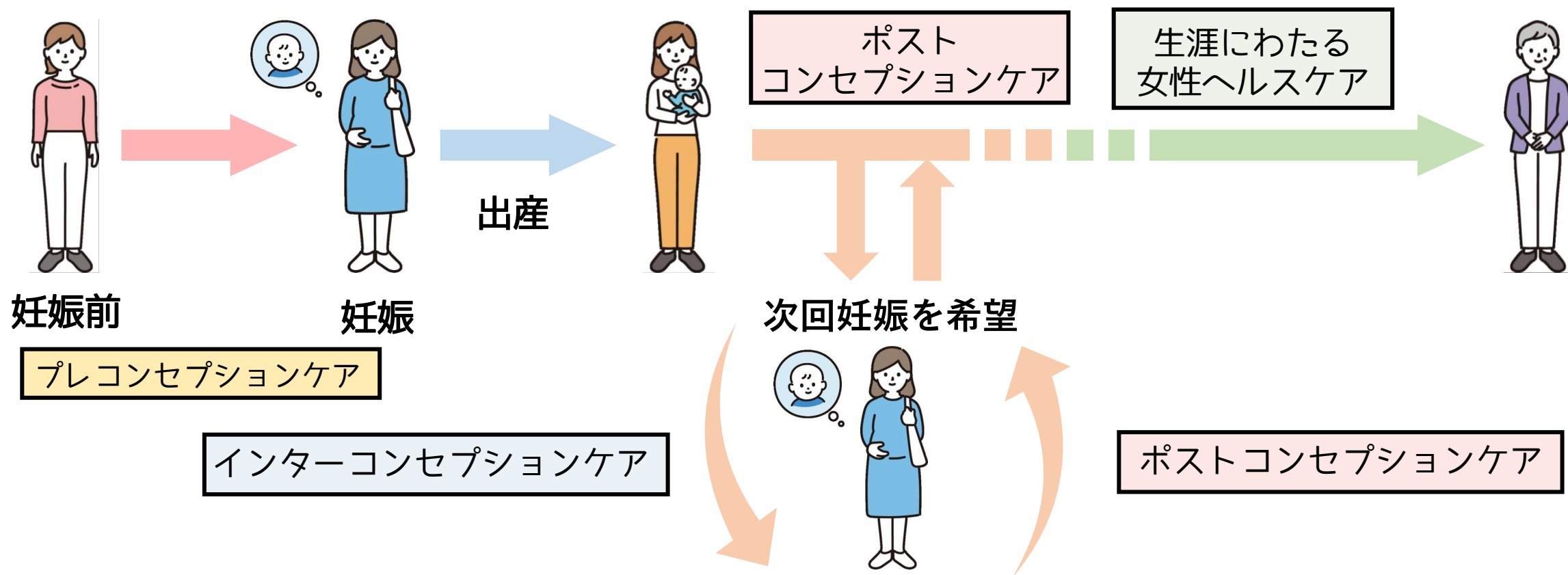


妊娠は将来の疾患の「ストレステスト」

本日の講義の内容

- ・ 妊娠高血圧症候群を発症した女性の将来の疾患リスクについて
- ・ **ポスト・インターコンセプションケア**とは？
- ・ 症例提示
 - ┌ 患者さんへの情報提供・生活習慣指導について
 - └ HDP再発予防に向けたインターコンセプションケアについて
- ・ 患者さんへの情報提供・生活指導を成功させるためには

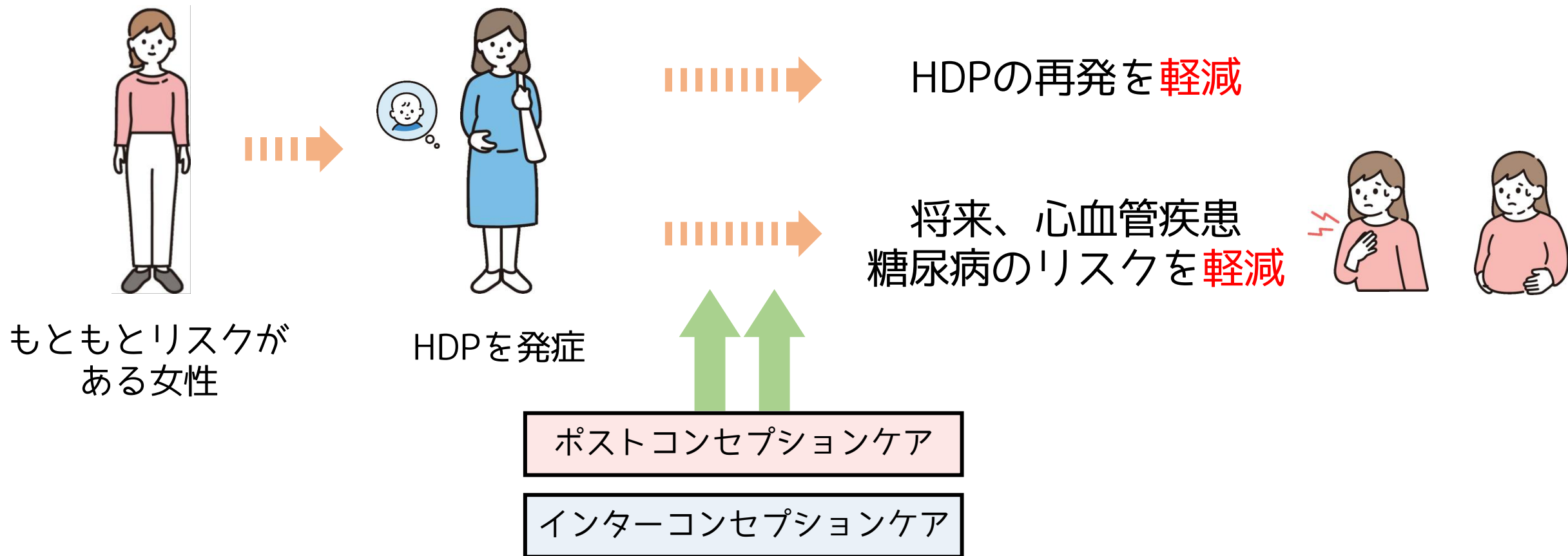
ポスト・インターコンセプションケアとは？



プレコンセプションケア（**プレ**：前、**コンセプション**：受胎・妊娠）
→女性やカップルに将来の妊娠のための健康管理を提供すること

ポストコンセプションケア（**ポスト**：後）→母と子のための**産後のケア**
インターコンセプションケア（**インター**：間）→次の妊娠に向けたケア

ポスト・インターコンセプションケアの目的は？



ポスト・インターコンセプションケア
≡ 健康的な生活習慣の維持のための取り組み

産婦人科診療ガイドライン2023

「CQ309-2 妊娠高血圧症候群と診断されたら？」

12. 妊娠高血圧症候群を発症した女性は将来的に高血圧、脳心血管疾患、糖尿病、慢性腎臓病などを発症するリスクが高いため、長期にわたり定期的な健康診断を勧める（C）

ACOG, ISSHP, NICEなどの海外のガイドラインでは、HDP既往女性に対し**至適体重の維持、適切な運動や食生活、禁煙**など健康的な生活習慣を維持することを推奨している。

わが国の「妊娠高血圧症候群の診療指針2021」では血圧、血糖値、脂質、腎機能、尿検査などを含む、少なくとも**年に1回程度の健康診断**を推奨している。



本日の講義の内容

- ・ 妊娠高血圧症候群を発症した女性の将来の疾患リスクについて
- ・ ポスト・インターコンセプションケアとは？
- ・ 症例提示
 - ┌ 患者さんへの情報提供・生活習慣指導について
 - └ HDP再発予防に向けたインターコンセプションケアについて
- ・ 患者さんへの情報提供・生活指導を成功させるためには

症例提示

34歳 G1P0

身長157cm 非妊娠時体重68kg (BMI 27.5)

家族歴：母 高血圧 父 糖尿病

妊娠初期には血圧120台だったが、

妊娠32週 血圧130台 尿蛋白1+

妊娠34週 血圧162/92mmHg 尿蛋白3+ を認め母体搬送
重症妊娠高血圧腎症のため、硫酸Mg、降圧薬を開始、
妊娠35週に高血圧緊急症のため緊急帝王切開

産後、2週間ほど降圧薬を使用し、徐々に血圧が改善し

1か月健診の時に降圧薬なしで血圧135/85mmHg 尿蛋白1+のためフォロー
終了とした。



症例提示

37歳（3年後） G2P1

身長157cm 非妊娠時体重73kg（BMI30← 前回妊娠前は68kg・BMI27）

（他院で管理）

妊娠初期には**血圧130台後半、時に140台だった**（≡ 高血圧合併妊娠）

妊娠14週 OGTTで2点陽性**GDM**の診断

妊娠26週 血圧150台 尿蛋白1+ 前医に入院

妊娠**28週** 血圧162/92mmHg 尿蛋白3+を認め当院に母体搬送

「よくあるよね～」

「これはしょうがないよね・・・」という意見もあるかと思います。

でも、どうしたらよかったのでしょうか？

何かできることはなかったのでしょうか？

→インターコンセプションケアの観点から考えてみましょう



症例提示

34歳 G1P0

身長157cm 非妊娠時体重68kg (BMI 27.5)

家族歴：母 高血圧 父 糖尿病

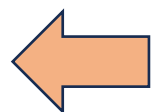
妊娠初期には血圧120台だったが、

妊娠32週 血圧130台 尿蛋白1+

妊娠34週 血圧162/92mmHg 尿蛋白3+を認め母体搬送

重症妊娠高血圧腎症のため、硫酸Mg、降圧薬を開始、

妊娠35週に高血圧緊急症のため緊急帝王切開

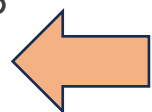


退院前に患者さんへの情報提供 (≒患者教育)

→産後の血圧管理、次回妊娠時の再発リスクなど (後述)

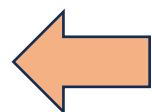
産後、2週間ほど降圧薬を使用し、徐々に血圧が改善し

1か月健診の時に 降圧薬なしで血圧135/85mmHg 尿蛋白1+のためフォロー終了とした。



1年ごとの健診を勧める、血圧や体重フォロー
状況により二次性高血圧の除外

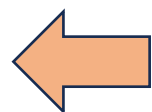
症例提示



可能ならば妊娠前に、次回妊娠の相談

37歳 G2P1

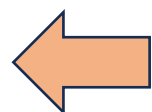
身長157cm 非妊娠時体重73kg (BMI 30)



妊娠前からの定期的な血圧測定
体重管理（妊娠前の体重や標準体重を目標）

（他院で管理）

妊娠初期には血圧130台後半、時に140台だった（≡ 高血圧合併妊娠）



妊娠初期からの低用量アスピリンの内服
妊娠前または妊娠初期から降圧薬の開始（120台を目標）

妊娠14週 OGTTで2点陽性GDMの診断

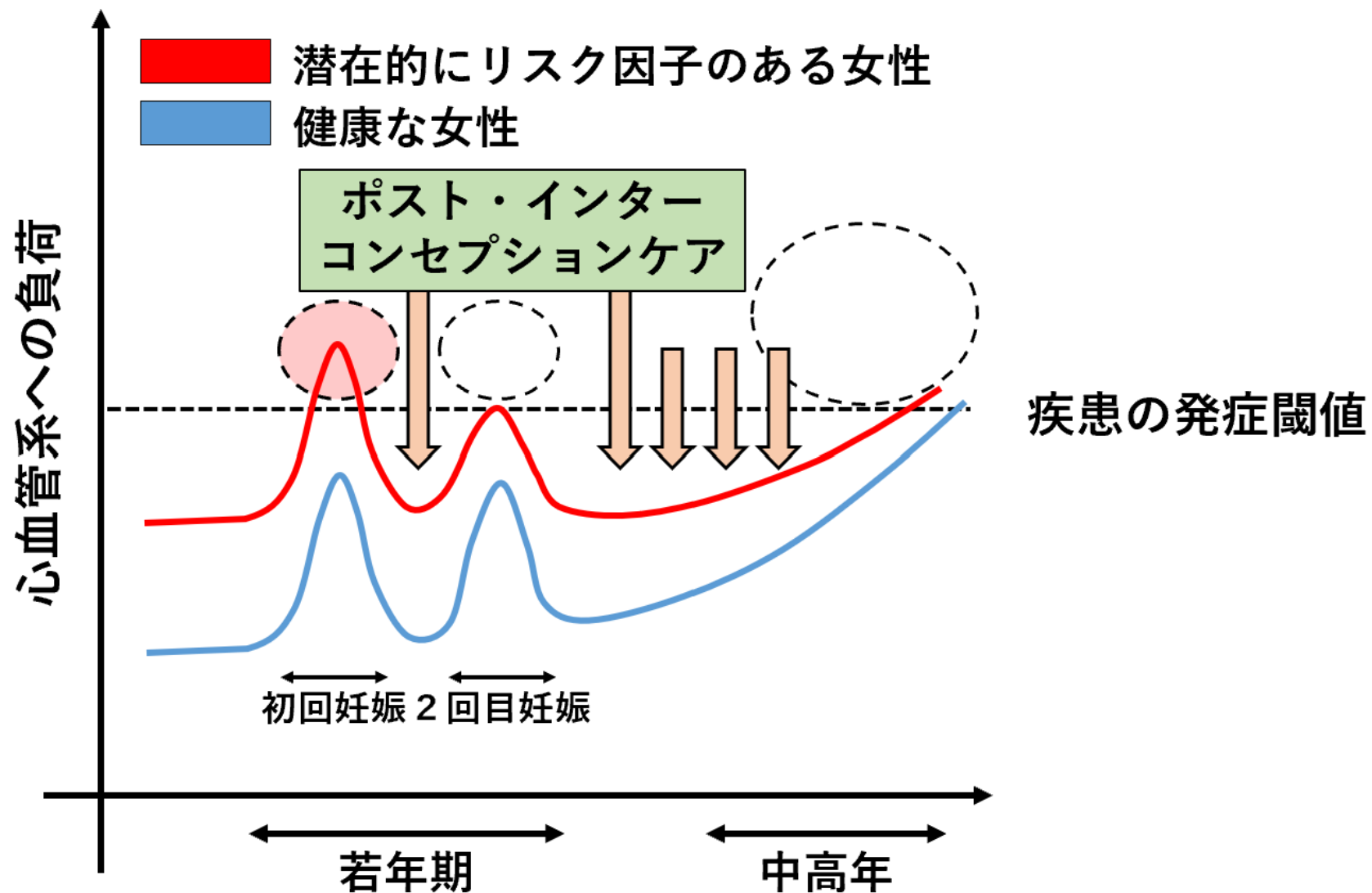
妊娠26週 血圧150台 尿蛋白1+ 前医に入院

妊娠28週 血圧162/92mmHg 尿蛋白3+を認め当院に母体搬送

もしかしたら、結果が変わっていたかもしれない！！



ポスト・インターコンセプションケア



HDP女性に対する情報提供

情報提供したい内容

1. 妊娠高血圧症候群を発症した女性の将来の疾患リスクについて
2. 将来的な疾患リスクの軽減のためにできることは？
3. 次回妊娠での妊娠高血圧症候群の再発予防について
4. 低用量アスピリンの適応の有無について

当院ではパンフレットを用いて
退院前に5分ほど説明してお渡ししています



パンフレット

妊娠高血圧症候群を発症した患者さんへ

はじめに

今回の妊娠で「妊娠高血圧症候群」を発症された患者さんにごパンフレットをお渡ししています。
妊娠中または産後1年以内の期間から妊娠高血圧症候群について説明があつたかと思いますが、このパンフレットを通じて、妊娠高血圧症候群について改めて理解を深めてもらいながら、**今後の妊娠での再発リスクや、10年・20年後など将来的な高血圧や生活習慣病などのリスクが高まることについて**知ってもらえたらと思います。

妊娠高血圧症候群とは

妊娠高血圧症候群は妊娠中に高血圧を認める場合に診断されます。この病気の発症率は約10%におおくと推定されており、妊婦の高血圧発症原因の一つです。
はっきりとした原因は解明されていませんが、妊娠初期に胎盤がうまく作られないことが原因と考えられています。また、妊娠さんが元々持っている病気（糖尿病や腎臓病など）や遺伝的な要因（生まれつき高血圧にかなっているなど）、妊娠さんの生活習慣などが妊娠高血圧症候群の発症に関与することが知られています。

産後の治療について

妊娠高血圧症候群は出産することで血圧は少しずつ改善していきます。産後も血圧が高い場合には、降圧薬を内服してもらうことがあります。大半の方は産後1か月程度で血圧は妊娠前の正常値に戻っていきます。もし、産後3か月経っても血圧が高い場合は、他に原因があるかどうかを調べる必要があるかもしれません。

次回妊娠での再発や将来の病気のリスクについて

妊娠高血圧症候群を発症しても、産後しばらくすると血圧は正常になり妊娠前の状態に戻りますが、次回妊娠した場合、妊娠高血圧症候群の再発率は15~25%と高くなります。
また、妊娠高血圧症候群を発症した女性は、中高年になると高血圧、慢性腎臓病、糖尿病などの発症リスクが高まり、またそれに伴って脳血管障害や心臓の病気にもなりやすくなるということが知られています。

妊娠高血圧症候群

140/110mmHg以上
出産後に一時的に血圧は改善するもの・・・

次回妊娠時 妊娠高血圧症候群の再発 15~25%

中高年 高血圧 心血管障害 2型糖尿病
約2~4倍 約1.5~2倍
(妊娠高血圧症候群にからなかった女性と比べて)

次回妊娠や将来の病気のリスク軽減に向けての取り組み

- ・産後・産前などで大きな減圧効果はありますが・・・
- ・血圧管理、心臓病発症後の予防
- ・体重が増えやすい産後早期の体重管理
- ・食事制限
- ・適度な運動
- ・母乳育児の継続
- ・1年ごとの定期健診受診

この取り組みの取り組みが重要です

次回の妊娠、将来の病気のリスク軽減にむけて

次の妊娠を考える際には、血圧が正常域で適正であることが望ましいです。規則正しい生活や適度な運動、力強い一歩や塩分の多い食事を控える、禁煙するなど、健康的な生活習慣を維持することがとても大切です。血圧が高い場合は、降圧薬の服用を継続しながら妊娠を継続することも可能です。

将来の病気のリスクを少しでも軽減するため、**1年ごとの定期健診を受診し**、高血圧がないかどうか、生活習慣病にかかっているかなど、自身の日常生活を振り返ることも重要と考えます。

また、金沢大学医学部附属病院 産婦人科では「インテグレーション」アスリッドを開設し、妊娠高血圧症候群の患者さんが、次回妊娠に向けてどのように健康管理をしていくかについて相談できます。もしご希望の方はそのQRコードから金沢大学のHPをご参照ください。ご自身で予約が可能です。

妊娠した場合には

次回妊娠時には、再発するリスクが高いため、妊娠した場合には、早めに産科病棟に受診して血圧の管理が必要となります。もし妊娠初期かつ降圧薬を服用している場合には、再発や中絶となるリスクが高くなるため産科病棟での受診が望ましいです。

また、次回妊娠時に妊娠高血圧症候群の再発を予防するために妊娠10週~14週頃まで「アスリッド」を服用する方法があります。しかし、妊娠高血圧症候群を再発したすべての方が対象というわけではなく、妊娠高血圧症候群と関連する高血圧に加えて蛋白尿または血漿脂質（総脂質、総コレステロール、LDLコレステロール）を認めるタイプの場合に該当しています。なお、今回の妊娠経過からは、次回妊娠時のアスリッドの内服は（必要）です。医師に相談してください。

この「アスリッド」は現在保険適応ではありませんが、海外では一般的に処方されています。日本の産科カドラインにも掲載されています。妊娠初期（12週まで）に受診して、内服するかどうか産科病棟と相談してください。

金沢大学医学部附属病院 産婦人科 産科病棟

具体的な生活習慣指導内容について

生活習慣の改善方法の説明

定期的な運動



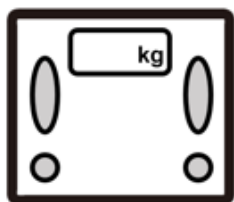
バランスのいい食事



禁煙



産後の体重管理



目標設定

母乳育児の継続



定期的な運動

- ・ 1日30分（週150分）を目標
- ・ 難しければ1日1000歩(約10分) 増やす

運動	
成人	歩行又はそれと同等以上の (3メッツ以上の強度の) 身体活動を 1日60分以上 (1日約8,000歩以上) (=週23メッツ・時以上)
	息が弾み汗をかく程度以上の (3メッツ以上の強度の) 運動を週60分以上 (=週 4メッツ・時以上) 【筋力トレーニングを週2～3日】

2023年厚生労働省の
「健康づくりのための身体活動・運動ガイド」

具体的な生活習慣指導内容について

バランスのいい食事

- ・ 外食を避ける
- ・ 塩分、脂質の多い食品を控える
- ・ 節酒（授乳中は禁酒）

禁煙

- ・ 禁煙の継続
- ・ 受動喫煙も避ける

産後の体重管理

- ・ まずは妊娠前まで
- ・ 可能なら標準体重BMI<25kg/m²

母乳育児の継続

母：がん（乳がん、卵巣がん）、
心臓病、糖尿病などのリスク軽減
産後すぐは体重が元に戻りやすい

子：感染症にかかりにくい
様々な発達の向上

具体的な生活習慣指導内容について（発展編）



プレコンセプションケア・チェックシート

～もっとすてきな自分に、そして未来の家族のために～

- | | |
|---|---|
| ☐ 適正体重をキープしよう。 | ☐ 危険ドラッグを使用しない。 |
| ☐ 禁煙する。受動喫煙を避ける。 | ☐ 有害な薬品を避ける。 |
| ☐ アルコールを控える。妊娠したら禁酒する。 | ☐ 生活習慣病をチェックしよう。
(血圧・糖尿病・検尿など) |
| ☐ バランスの良い食事をこころがける。 | ☐ がんのチェックをしよう。
(乳がん・子宮頸がんなど) |
| ☐ 食事とサプリメントから
葉酸を積極的に摂取しよう。 | ☐ HPVワクチンを接種したか確認しよう。 |
| ☐ 150分/週運動しよう。
こころもからだも活発に。 | ☐ かかりつけの婦人科医をつくろう。 |
| ☐ ストレスをためこまない。 | ☐ 持病と妊娠について知ろう。
(薬の内服についてなど) |
| ☐ 感染症から自分を守る。
(風疹・B型/C型肝炎・性感染症など) | ☐ 家族の病気を知っておこう。 |
| ☐ ワクチン接種をしよう。
(風疹・インフルエンザなど) | ☐ 歯のケアをしよう。 |
| ☐ パートナーと一緒に健康管理をしよう。 | ☐ 計画：将来の妊娠・出産を
ライフプランとして考えてみよう。 |

女性用

男性用もご覧ください！

もっとすてきな自分になるために、未来の家族のために、できることから始めて、
1つずつチェック項目を増やしていきましょう。



2023年12月9日訂

国立成育医療研究センター
「プレコン・チェックシート」



妊娠前からはじめる 妊産婦のための食生活指針

～妊娠前から、健康なからだづくりを～

お母さんの健康と赤ちゃんの健やかな発育には、妊娠前からの
からだづくりが大切です。
依然として若い世代の「やせ」が多いことなどの課題を受けて、
10項目の指針が示されました。
ぜひ妊娠前からしっかりと食事をとることを意識しましょう。



- 妊娠前から、バランスのよい食事をしっかりととりましょう
- 「主食」を中心に、エネルギーをしっかりと
- 不足しがちなビタミン・ミネラルを、「副菜」でたっぷりと
- 「主菜」を組み合わせたんぱく質を十分に
- 乳製品、緑黄色野菜、豆類、小魚などでカルシウムを十分に
- 妊娠中の体重増加は、お母さんと赤ちゃんにとって望ましい量に
- 母乳育児も、バランスのよい食生活のなかで
- 無理なくからだを動かしましょう
- たばこやお酒の害から赤ちゃんを守りましょう
- お母さんと赤ちゃんのからだと心のゆとりは、
周囲のあたたかいサポートから

妊娠中・授乳中に気を付けたい具体的な内容は中巻をチェック！

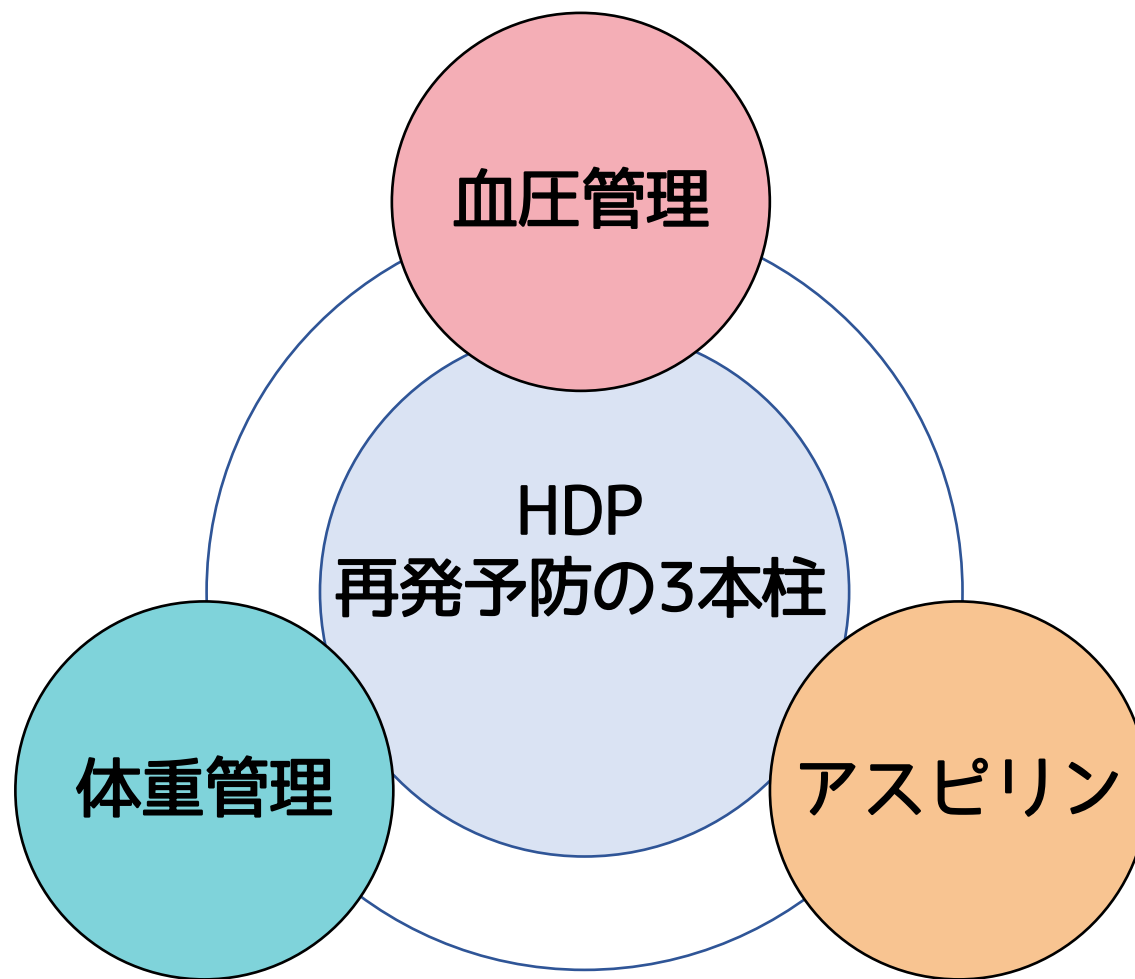
厚生労働省「妊産婦のための食生活指針」



★講義資料に入っています★

次回妊娠におけるHDP再発予防について

インターコンセプションケア

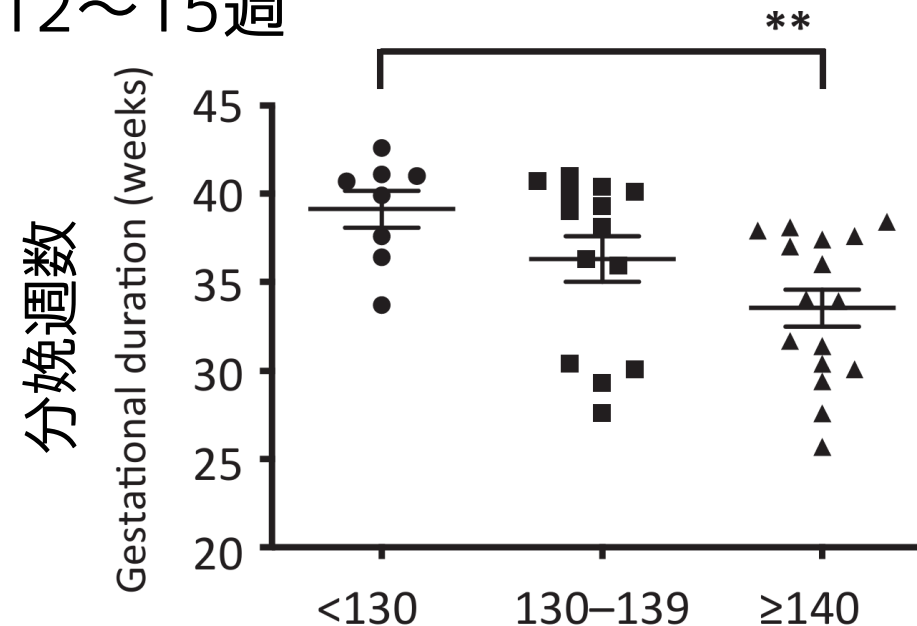


次回妊娠におけるHDP再発予防について

血圧測定・管理（産後3か月以降）

- * 定期的に血圧を測定し、高めであれば内科で原因検索（二次性高血圧）を勧める
- * 次回妊娠前までに**血圧130mmHg未満**になるように降圧薬を調整する
- * もし妊娠初期に血圧が高い場合には、**12週までに**130mmHg未満になるように積極的に降圧薬を処方する

妊娠12～15週



次回妊娠におけるHDP再発予防について

体重管理

- ＊ もともと肥満・妊娠糖尿病の方が多いので体重管理は非常に重要
次回妊娠での再発率にかなり影響します！
- ＊ 次回妊娠までに**標準体重**（BMI<25kg/m²）（**難しければ妊娠前の体重**）
に戻せるようにアドバイスする

（前掲の症例）
次回妊娠時の体重73kg（BMI30） HDP再発率71%
 体重68kg（BMI27.5） 63%
 体重61kg（BMI25） 56%



母体情報		どれぐらいを目標としますか？	
お母さんの生年月日	1990/10/22		
身長：cm	160	1年あたりの	次回妊娠でのリスク（%）
体重：kg	80	体重変化（kg/年）	妊娠高血圧症候群
BMI：kg/m2	31.3	-10.8	17.4
今回の妊娠について		-9.7	21.4
分娩予定日	2023/4/9	-8.7	25.9
分娩日	2023/2/13	-7.7	31.1
分娩週数	32週1日	-6.7	36.8
分娩時年齢	32.3	-5.6	42.8
今回生まれた子	初めての子	-4.6	49.1
自然出産	発症しなかった	-3.6	55.5
妊娠高血圧症候群	発症した	-2.6	61.6
妊娠糖尿病	発症した	-2.0	64.5
家族計画		-1.5	67.4
いつごろの妊娠を希望しますか？		-0.5	72.7
3 歳差		0.0	75.1
		0.3	76.3
		0.5	77.4

Tano, Ushida *et al*, Sci Rep, 2021
Tano, Ushida *et al*, Hypertens Res, 2024

予測モデルを活用し、患者さん自身のやる気や、生活スタイルを尊重しつつ
本人と相談して目標を立てることができる

次回妊娠でHDPの再発予防について

次回妊娠時に低用量アスピリン内服

- ＊妊娠高血圧腎症を約3～5割減らすことができる
 - ・日本ではまだ保険適応されていないが、現在保険収載に向けての動きがある
- ＊現在日本では、HDPの中でも妊娠高血圧腎症の場合に内服が推奨されている
 - ・妊娠12週から28週まで、81～100mg/日
 - ・妊娠16週以降から開始した場合には予防効果がない
 - ・夕食後または寝る前の内服がより効果的
 - ・胃薬と一緒に内服するとより安心（またはアスピリン腸溶錠）



妊娠した場合には

次回妊娠時には、再発するリスクが高いため、妊娠した場合には、早めに医療機関に受診して血圧の管理が必要となります。もし妊娠前から降圧薬を内服している場合には、再発や早産となるリスクが高くなるため総合病院での妊娠管理が望ましいです。

また、次回妊娠時に妊娠高血圧症候群の再発を予防する手段として妊娠12週～28週までバイアスピリンを内服する方法があります。しかし、妊娠高血圧症候群を発症したすべての方が対象というわけではなく、妊娠高血圧腎症と言って、高血圧に加えて蛋白尿または臓器障害（肝機能異常、腎機能異常、血小板減少など）を認めるタイプの場合に適応になっています。なお、今回の妊娠経過からは、次回妊娠時のバイアスピリン内服の①適応です、②適応ではありません。

アスピリンの「①適応です、②適応ではありません」のどちらかに○を付けて患者さんに渡してあげてください。

次回妊娠でHDPの再発予防について

オプション

1日摂取量

カロリー: 20%不足
カルシウム: 30-40%不足
ビタミンD: 40%不足
鉄: 40%不足



日本人女性



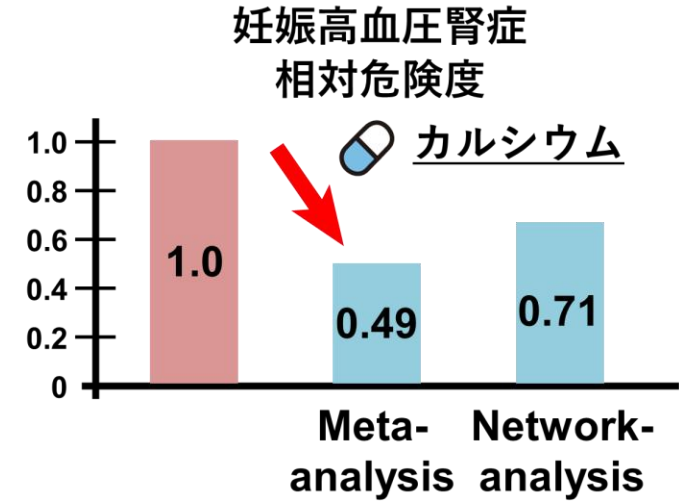
妊婦



サプリメント摂取



カルシウム
500 mg/day



Ushida, *Hypertens Res*, 2024

妊娠前からカルシウムと葉酸のサプリメント摂取を推奨

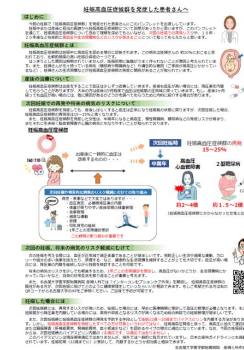
本日の講義の内容

- ・ 妊娠高血圧症候群を発症した女性の将来の疾患リスクについて
- ・ ポスト・インターコンセプションケアとは？
- ・ 症例提示
 - ┌ 患者さんへの情報提供・生活習慣指導について
 - └ HDP再発予防に向けたインターコンセプションケアについて
- ・ 患者さんへの情報提供・生活指導を成功させるためには

患者さんへの情報提供・生活指導を成功させるために

一番重要なのは・・・「始めてみること」

1. この講義動画（もう一度見直して）
2. 患者さんに説明するパンフレットを確認
3. 患者さんへの情報提供・生活指導動画を参照
（助産師・看護師用 約10分）
アニメーションで作成しました！



患者さんへの情報提供・生活指導を成功させるために

対象：出産経験のある女性

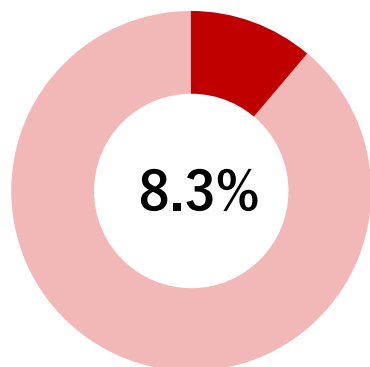
アンケート期間：2024年3月~5月

アンケート方法：Webアンケート

有効回答数：880名（そのうち妊娠高血圧症候群既往女性 73名）

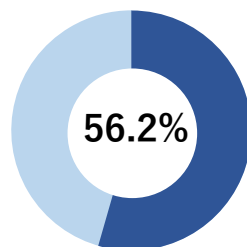


妊娠高血圧症候群既往

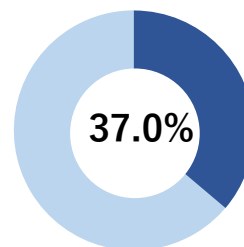


将来の疾患リスクや次回妊娠についての知識

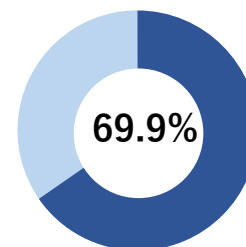
心血管障害



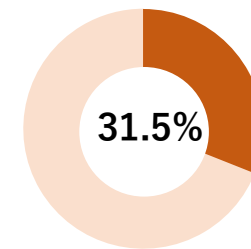
メタボリック症候群



妊娠高血圧症候群の再発



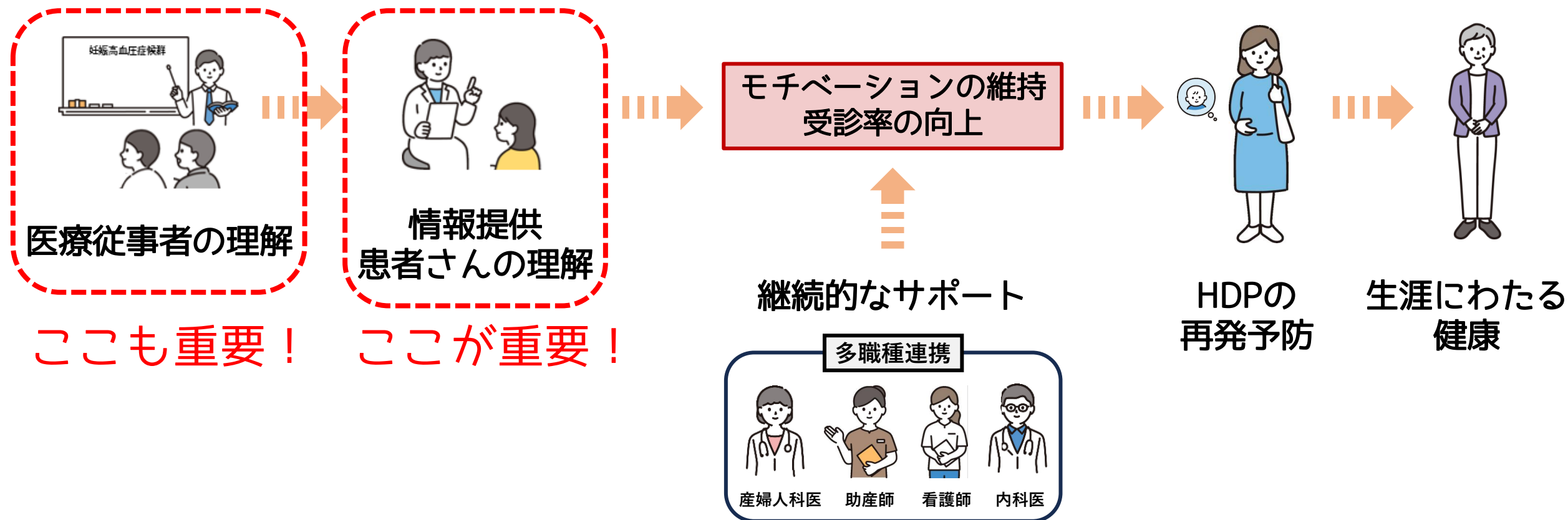
医療従事者から
情報提供・生活指導を
受けたことがない



Ushida, JOGR 2024

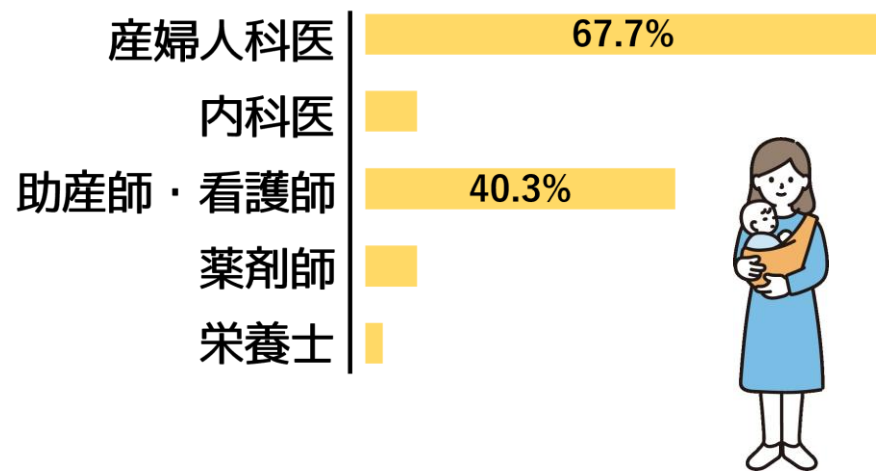
患者さんへの情報提供・生活指導は十分にできていない

患者さんへの情報提供・生活指導を成功させるために



患者さんへの情報提供・生活指導を成功させるために

情報提供や生活指導を誰から受けましたか？ (複数選択可)



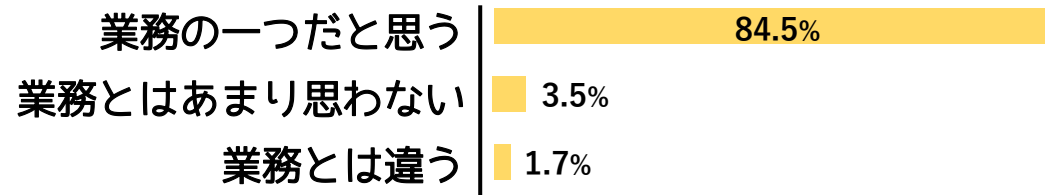
(n=73)

医師以外へのタスクシフトの可能性

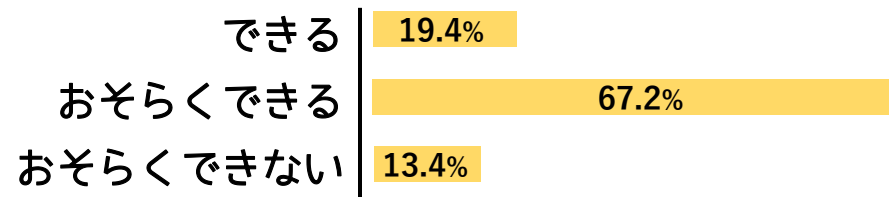


助産師 看護師 (n=537)

Q1: 助産師・看護師が行うことについてどう思いますか？



Q2: 情報提供や生活指導をできそうですか？



名古屋大学 産婦人科HP



インターコンセプションケア外来を開設

名古屋大学 インターコンセプションケアに特化したカウンセリング外来を開設

対象となる疾患はHDP、早産、妊娠糖尿病

予約は地域連携および**患者さん本人**からの申し込みも可能



Google



インターコンセプションケア 名大



問い合わせ：名古屋大学医学部附属病院 産婦人科外来 052-741-2111（代表）

名古屋大学 産婦人科
インターコンセプションケア外来の開設のお知らせ

次の妊娠に向けて
(インターコンセプションケア)
相談してみませんか？

インターコンセプションケアとは？

出産後から次の妊娠（コンセプション）に向けた健康増進への取り組みを相談します。次回妊娠までの健康増進、また妊娠された後の胎産管理についての情報提供やアドバイスを行います。

相談例

- ・前回妊娠薬物妊娠で早産になってしまいました。また再発しますか？
次回妊娠までに何かできることがありますか？
- ・前回妊娠24週で破水して早産になってしまいました。
次回妊娠時にどういったことに気をつけたいでしょうか？
- ・前回妊娠糖尿病でした。次回妊娠するまでの期間、生活習慣をどのように変えていったらいいでしょうか？

【費用】 5000円（税別）
【時間】 1回30分以内（延長の場合には追加料金30分ごとに5000円）
【曜日】 第2、第4 月曜日午後（完全予約制）
【場所】 産婦人科外来
【予約方法】 患者さん本人から予約可能です。
名古屋大学医学部附属病院のHP（下記QRコード）を参照し、「インターコンセプションケア外来申込書」を病診連携受付宛にFAXあるいは郵送でお送りください。
FAX: 052-744-2803
【申込み先】 郵送: 〒466-8560 名古屋市中区鶴舞南6丁目
名古屋大学医学部附属病院 病診連携受付



Google

インターコンセプションケア 名大



「妊娠高血圧ヘルスケアプロバイダー」取得しませんか？

この動画だけだとちょっと物足りない方へ
ちょっと興味が出てきた・・・、もっと継続的に学びたい方へ

「妊娠高血圧ヘルスケアプロバイダー認定制度」

2023年の日本妊娠高血圧学会では
約200名以上の助産師、看護師、栄養士、内科医、
産婦人科医が参加されました。**毎年学会**で取得可能です。



第43回日本妊娠高血圧学会学術集会

ヘルスケア
プロバイダー認定
始まる

日本妊娠高血圧学会では2023年度より
妊娠高血圧ヘルスケアプロバイダー制度を開始します

本制度は、妊娠高血圧症候群に関する知識に習熟し、妊娠前、妊娠中および出産後にチーム医療による専門的なケアを実施することで女性の健康維持に貢献する人材の養成を目的としたものです。

対象者は看護師、助産師、薬剤師、心理士、栄養士、保健師を含むすべての医療者で、所定の講習を修了することで妊娠高血圧ヘルスケアプロバイダーと認定されます。本資格は医師も取得可能であり、専門診療科は問いません。

本学術集会では認定申請に必要な講習を聴講できます。

〈会期〉 2023年 9月 29日(金)～30日(土)
〈会場〉 昭和大会上條記念館
〈会長〉 関沢 明彦 (昭和大学医学部産婦人科学講座 教授)

WEB <http://jshp43.umin.jp/>

運営事務局 株式会社MAコンベンションコンサルティング
〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7 麹町パークサイドビル 402
TEL: 03-5275-1191 E-mail: jshp43@mac.jp



第44回日本妊娠高血圧学会学術集会

妊娠高血圧症候群の予防から
長期フォローアップまで
ヘルスケアプロバイダーと肩を並べる医療者を育てる

日程: 2024年9月21日(土)～22日(日)
会場: ライトキープ宇都宮 (UHF 宇都宮駅前)
会長: 大川 昭英 (昭和大学医学部産婦人科学講座 教授)



第3回 妊娠高血圧ヘルスケアプロバイダー 認定講習会
2025年10月19日(日) 9-17時 コングレススクエア日本橋
第45回 日本妊娠高血圧学会学術集会 で開催

1. 妊娠高血圧ヘルスケアプロバイダーとは？
妊娠高血圧症候群に関する知識に習熟し、妊娠前・妊娠中・出産後にチーム医療による専門的なケアを実施し、女性の健康維持に貢献することのできる医療者です。

2. どんな人が取得できますか？
全診療科の医師・看護師・助産師・保健師・心理士・栄養士など妊娠高血圧症候群の診療に関わる医療関係者です。

3. 認定方法は？
認定講習会の10の講習を受講し、申請することで認定されます。妊娠高血圧症候群の診療に必須の項目を1日で学べます。
妊娠高血圧症候群診断・高血圧診断・プレセンプレシン・インテグレーション・コンセンサス・産前産後メンタルヘルス・新生児管理・妊娠高血圧症候群の予防に必要な薬剤・栄養管理・運動管理

SSHP 先着200名 詳しくは学会HPへ

Take home message

「妊娠高血圧症候群を発症した女性の、将来の疾患リスクについて理解し
ポスト・インターコンセプションケアを**実際に行えるようにする**」

ポスト・インターコンセプションケアを
実践してみましょう

皆さんの取り組みが、将来の女性の健康につながります



ご質問やご要望はこちらに



名古屋大学 産婦人科 牛田貴文

E-mail: u-taka23@med.nagoya-u.ac.jp